EGGPLANT
ホームスクール通信　エッグプラント

Nファミリー
2012.10.1
No.98

キリストの再臨とは？

イエス・キリストは偉大な道徳家と考える人がいます。「あなたの敵を愛しなさい」などの説教が印象的だからでしょう。しかし聖書を読んでいくとかなりイメージは違います。イエスはご自分を創造主から遣わされた救い主（キリスト）であると何度も宣言しています。また、創造主と自分が同一であるとも言っています。それらのことに確証を与えるために、未来のことを「予言」の形で語り、その正確性を通してイエスが本物の救い主であることを示そうされたのです。今回は、世界の終末に関する預言を取り上げます。

1、神殿崩壊の予言

二千年前のイスラエルには大きな神殿がありました。それを見た人たちとの会話です。

「宮がすばらしい石や奉納物で飾ってあると話していた人々があった。するとイエスはこう言われた。『あなたがたの見ているこれらの物について言えば、石がくずされずに積まれたまま残ることのない日がやって来ます。』彼らは、イエスに質問して言った。『先生。それでは、これらのことは、いつ起こるのでしょう。これらのことが起こるときは、どんな前兆があるのでしょう。』」（ルカ二十一章五～七節）

神殿がローマによって破壊されるのは、これが語られてから四十年後のことです。

聖書の預言の特徴として、未来に起こる幾つかの出来事を一度に重ねて語っていくというのがあります。イエスはユダヤ人にとって致命的な神殿崩壊の警告と同時に、世界の終わりについても語っているのです。それが以下です。

2、終末世界の予言

「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大ぜい現われ、『私がそれだ。』とか『時は近づいた。』とか言います。そんな人々のあとについて行ってはなりません。戦争や暴動のことを聞いても、こわがってはいけません。それは、初めに必ず起こることです。だが、終わりは、すぐには来ません。」それから、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、大地震があり、方々に疫病やききんが起こり、恐ろしいことや天からのすさまじい前兆が現われます。」（ルカ二十一章八～十一節）

じっくり考えるとすごい予言です。自分の名前が世界中に広まり、自分の名を名乗る偽者ができることを予告しているのです。戦争、地震、飢饉といった現象があちこちで起こることも今聞けば当然のように思えても、これを二千年前のユダヤの田舎で語られたことを思うと驚きです。

3、キリスト再臨の予言

実は、最も語りたかったことは、世界の終わりにもう一度ご自身がこの世界にやってくるということでした。これをキリストの「再臨」と言います。キリストは二千年前には人間の罪の身代わりに十字架にかかるためにこの世界に来られたが、世の終わりには、世界に「公平な裁き」をもたらすために来られるというのです。

「…日と月と星には、前兆が現われ、地上では、諸国の民が、海と波が荒れどよめくために不安に陥って悩み、人々は、その住むすべての所を襲おうとしていることを予想して、恐ろしさのあまり気を失います。天の万象が揺り動かされるからです。そのとき、人々は、人の子（キリストのこと）が力と輝かしい栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。これらのことが起こり始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上に上げなさい。贖いが近づいたのです。」

（ルカ二十一章二十五～二十八節）

これらの発言は、尋常な精神をもった人のものとは思えません。しかし、他の箇所で予言していたように、十字架にかけられて殺されました。そして、死後よみがえる、という予言も成就して、弟子たちの前に死後三日目に現れたのです。四十日後、天に帰って行かれ、再臨のときに再び地上に来る、というのが聖書の歴史観です。「道徳家イエス」と考えている人にはあまりにも突拍子もないことのように聞こえるでしょう。私たちは信じやすからではなく、聖書に記されているのでそのことが起こると信じているのです。

自転車　パート2

E

僕の趣味は自転車です。自転車を掃除したり、メンテナンスしたり、サイクリングしたりします。

乗ることだけではなく、メンテナンスすることがだいすきです。僕は、ロードバイクと言ってきれいな道路を早く走るための自転車を二台、MTB（マウンテンバイク）と言って凸凹道や荒っぽい道を走るための自転車を一台、そしてミニベロ（折りたたみ小径車）という、折りたたみができ、電車の中にも専用の袋に入れたら乗車できるという持ち運び用の自転車を一台を持っています。三台すべての用途が違うので使い分けています。また自転車はメンテナンスがとても大事で、メンテナンスの量で、自転車の持ちが決まるといわれているほどです。だから、タオルで拭いたり、注油したり、ブレーキの調整をしたり、いろいろな掃除をしたりしています。

これからも四台の自転車をメンテナンスし、また大事に乗っていきたいと思います。

こんなことしました！　行事報告

九月

五日　玄遠社展（大阪市立美術館）
九日　玄遠社表彰式（都ホテル）
十五～十七日　ユース・セミナー（羽衣ユースホステル）
十八日　音楽の集い
二十九日　Nの祖父誕生日会（E兄宅）

玄遠社賞

R

今回、玄遠社書展に四度目の出品をしました。去年玄遠社書展に行った時、「玄遠社賞を取りたい」と思っていましたが、絶対無理だとも思っていました。今回の作品は「庭の芝生」と書きましたが、「芝」という字がむずかしかったので入賞できるか心配していました。でも今回初めて玄遠社賞という特別賞の中で一番いい賞で本当にうれしかったです。

展覧会には、両親と祖父にも来てもらってすごくうれしかったです。そして、先生方の作品や、韓国語の作品など私には読めない字がたくさんあってびっくりしました。

そして、特別賞をいただいたので、表彰式に出させていただきました。私の先生が「団体優勝」をもらったので、私はたくさんの人の前で、「謝辞」を言うことになりました。先生からその話を聞いた時は、緊張するかなと思っていましたが、何度も練習して、本番もあまり緊張せずに、このようなあいさつをしました。

「伝統ある第六十二回玄遠社書展でこの様なすばらしい賞をいただけたことは夢のようです。先生か入賞を知らされた時は嬉しくて舞い上がりました。ここにいらっしゃるみなさんもきっと同じ気持ちだったと思います。私も何度か賞は頂きましたが、玄遠社賞は初めてです。入賞を聞いた日は嬉しくて眠れませんでした。これからは頂いた賞に恥じないよう、先生のもとでより一層書の道に励んでいきたいと思います。本当にありがとうございました。簡単ではございますが、受賞者を代表してのお礼の言葉とさせていただきます。」

これからも書道を頑張っていきたいです。

編集後記

博多に友人を訪ねて行きました。歯科医で開業していますが、スタッフに研修目的で「聖書講演会」を企画してくれたのです。診療台のそばでメッセージするのは奇妙な感じでした。聖書は単なる宗教書としてしか思っていなかった人が多いことに今さらながら気付かされました。